

551.782 : 550.835(521.53) : 539.16.08

美濃炭田土岐地区北東部における新第三系の放射能強度について

福田 理 尾上 亨

要 旨

昭和32年に当所で行なつた自動車放射能探査の結果を参照しながら、岐阜県美濃炭田北西部において、おもに新第三系を対象として放射能強度の測定を行なつた。

調査範囲は土岐市泉町から瑞浪市北西部にわたる面積約65 km²の地域である。測定にあつては医理学研究所製 DC-P3型の携帯用ガイガー計数器を使用した。

本器によつて測定した各累層を構成している岩石の放射能強度と岩質とを比較・対照してみた結果、本地域の新第三系については、礫あるいは礫岩および砂あるいは砂岩のような粗粒の岩石において一般に放射能強度は高いことが判明した。しかしそのもつとも高いところにおいても自然放射能強度の約2倍にすぎなかつた。

(昭和32年10月調査)

539.16.08(522.3) : 551.791 : 550.835

佐賀県背振山麓のウラン調査

古川 俊太郎

要 旨

核原料物質調査の一環として、佐賀平野北側の背振山麓ならびに周辺台地の新期洪積層における放射能異常の有無を知ることが目的として予察調査を行なつた。放射能測定器は Transient model 1001型 Scintillation Counter を使用した。

この結果、当調査地域の放射能強度は、自然計数に対する比の高いものから、花崗岩数(1.24)、新期洪積層(1.

15)、三郡変成岩類(0.87)の順になる。また測定地点における最高の放射能強度は同じく礫岩(1.66)でこれについてペグマタイト脈(1.58)、深江型花崗岩(1.58)、早良型花崗岩(1.41)、砂混り粘土(1.40)等が2~3カ所認められる程度で、他は自然計数値と大差はなく、異常地は認められない。

(昭和37年2月調査)

553.32 : 553.495 : 550.835(522.7) : 539.16.08

宮崎県秋元鉱山のウラン概査報告

木下 亀城 藤井 紀之

要 旨

宮崎県秋元鉱山におけるマンガン鉱床に伴うウラン調査を目的として鉱山周辺を調査した。その結果

1) 古生層の岩石中粘板岩はいつもやや高い放射能強度を示した。

2) マンガン鉱体は一般に放射能強度が低い、上盤

の粘板岩はやや高く、分析の結果その一部に $U_3O_8=0.001\%$ を示したものがあつた。

3) 全体として資源的に注目すべきほどのウランはみだしえなかつた。

(昭和34年2月調査)

553. 32 : 550. 835(522. 5) : 539. 16. 08

熊本県八代鉱山ウラン調査

稲井 信雄 村上 篁

要 旨

熊本県八代マンガン鉱山周辺の放射能強度を測定する目的で調査した。マンガン鉱床は千枚珪岩中に胚胎する不規則な形状をなし、露頭付近は酸化鉱石からなるが、下底は炭マンおよび珪マンが産出している。放射能調査

に際して使用した測定器は Transcient 1001 型で、測定の結果特に高い放射能異常を発見し得なかつた。ただ断層に沿う石墨質の粘土の一部にウランによる自然計数の 3 ~ 4 倍の強度を示したがウラン鉱物は認め難い。

(昭和 36 年 3 月調査)

553. 32 : 550. 835(522. 6) : 539. 16. 08

大分県南部のマンガン鉱床におけるウラン予察

藤井 紀之 古川 俊太郎

要 旨

大分県南部戸高西山・小鹿高・千怒・四浦・下払および高平の各鉱山はいずれも古生層のチャートまたは粘板岩を母岩とするマンガン鉱床である。主要な鉱石は各鉱山ともブラウン鉱・チョコレート鉱・白色炭マン鉱で各鉱山ともあまり変化は認められない。放射能強度測定

の結果、粘板岩の一部および黒鉛質粘土を伴う断層に自然計数の 3 ~ 6 倍の放射能異常が認められ、少量のウランが検出された。しかしそれらは資源的にほとんど期待することができない。

(昭和 34 年 12 月調査)